

教育方針	「どこに出しても恥ずかしくない人間になれ」 「国家社会の役に立つ人間になれ」	重点目標	生徒一人ひとりを一層輝かせる教育の推進 -100年の伝統を受け継ぐ土魂とともに- ○豊かな心情と節度ある人間性を育む学校 ○自ら学び、挑戦し努力する力を育む学校 ○常に地域と連携している学校 ○安全・安心で信頼される学校
	【指導方針】 一人ひとりの生徒を見つめ、励ましを与え、たくましく生きる力を育む教育の推進 ・豊かな心情をもった節度のある人づくりの推進 ・自ら学ぶ態度を身に付けさせる教育の推進 ・チャレンジ精神を育む教育の推進 ・健康で明朗な心身の育成を図る教育の推進		

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
1 学校 経営	地域に開かれた学校、及び地域貢献活動の推進と学校教育活動の公開	<ul style="list-style-type: none"> ・常に地域とともにある学校を推進するため、各種開講座の実施、地域イベントへの積極的参加教育関係団体等への施設設備の解放等を行う。 ・ホームページに毎日の教育活動を公開し、生徒が生き生きと活動している様子を掲載する。(1日閲覧数平均 A:600 B:400 C:200 D:150 E:100) ・各課の定期刊行物を速やかに掲載する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は新型コロナウイルス感染症も5類に移行され、地域とともにある学校をめざして、各種公開講座の実施、地域イベントへの参加は予定通り実施できた。また、教育関係団体等への施設設備の解放等も実施の方向で進めることができた。 ・ホームページの閲覧数1日平均334カウントであった。一日の平均ホームページアップ数は1.6回であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、各種開放講座の実施、地域イベントへの参加を積極的に行い、地域とともにある学校づくりを積極的に進めていく。 ・ホームページの更新者に偏りが見られるため、教職員全員が月に最低1回は記事をアップする方法を考える必要がある。 ・各課の定期刊行物は早めに掲載するよう呼びかけを行う。
	校務ICT化の推進による業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムと各種アプリを活用して校務の軽減を図り、生徒の指導の充実に努め、働き方改革を推進する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムと各種アプリの活用によって少しずつではあるが校務の効率化を進めることができた。そして、教職員の在校時間が少なくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムと各種アプリの活用を引き続き進めていく。また、教職員1人1台端末の活用及び充実に努め働き方改革を推進する。
	P T A 活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの保護者が参加しやすいPTA活動になるように、学校通信やHPなどで呼びかけを行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・文書や学校通信等でPTA活動への参加を呼びかけ、役員を中心に参加があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、保護者が参加したいと思う工夫を行っていく。
2 学習 指導	教科指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒1人1台端末を使って、分かる授業、達成感のある授業に努め、学習に対する興味・関心を持たせる授業に取り組む。 「主体的・対話的で深い学び」につなげるためにICT機器を積極的に活用した授業改善に努める。 ・教員のICT機器活用のスキルアップのための研修会を年間3回実施する。(A:3回 B:2回 C:1回) ・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点による評価について、教員間の共通理解を図るとともに、生徒へのフィードバックを適切に行う。 ・数学・英語においては習熟度別クラス編成を行い、個々の学力に応じた学習指導を行うと同時に確かな学力の定着を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒1人1台端末を使って、生徒に学習に対する興味・関心を持たせる授業に取り組めた。先生方でICT機器を積極的に活用した授業改善に努めていただいた。研究授業においても、ICT機器を活用した授業が行われた。教員のICT機器活用のスキルアップのための研修会を年間2回実施する。(A:3回 B:2回 C:1回) ・新学習指導要領に示されている3段階による評価を取り入れた評価方法について各教科で実施できた。面談や保護者懇談会を通じて、評価を説明することができた。 ・数学・英語においては習熟度別クラス編成を行い、個々の学力に応じた学習指導を行うと同時に確かな学力の定着を図れた。2学期末において、多くの生徒の成績が向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度は全学年が新学習指導要領に則った教育課程となる。今年度実施した評価方法についても改善を行っていく。 ・教員のICT機器活用のスキルアップに引き続き努め、校内研修を実施する。また、教員相互の情報交換を活発に行うように促す。 ・来年度も英語、数学科においては習熟度クラス編成、国語、地理歴史・公民科においても少人数クラス編成を実施し、生徒の実態に応じた教科指導を実施する。

評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

	家庭学習習慣の定着及び基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間調査を活用して定期考査期間の学習意識の向上に努める。また、家庭学習習慣の定着を図るため各教科で課題を設定するとともに、一人一台端末を活用した課題の設定を推進していく。 ・漢字テスト平均点85点以上や数学計算テスト平均点75点以上などの具体的な目標を持たせ、自主的に学習に取り組む態度を養い、基礎学力の定着を図る。 (漢字テスト A:85点以上、B:84～80点、C:79～75点、D:74～70点、E:70点未満) (数学テスト A:75点以上、B:74～70点、C:69～65点、D:64～60点、E:60点未満) ・安易な欠席・遅刻をさせず、皆勤率55%以上を目指す。欠席の多い生徒には、家庭との連絡を密にし、安易に休まないという意識を高めさせる。(A:55%以上、B:54～50%、C:49～45%、D:44～40%、E:40%未満) ・資格取得に積極的に取り組ませることで、学習意欲の向上に努める。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間調査の結果から、家庭学習時間の確保が不十分であると思われる。課題をより工夫し日頃から家庭での学習習慣を身に付けさせる必要がある。 ・漢字テスト平均点79.3点、数学計算テスト平均点73.3点である。クラス担任や数学科で指導していただいた結果、昨年度よりも良い点数となった。(漢字テスト評価B)(数学テスト評価B) ・皆勤率は38.5%と大幅に下がっている。担任、学年を中心として欠席した生徒の家庭と連絡を密に取っていただき、心配のある生徒には家庭訪問をするなど早期に対応していただいた。(皆勤率評価E) ・資格取得については、全校生徒のうち88%の生徒が1つ以上、延べ619(昨年度以前の取得も含む)の資格を取得している。昨年度よりも資格取得に積極的に取り組む生徒が増えており、今後も積極的に資格取得に取り組ませ、学習意欲の向上に努めるとともに、進路実現に役立てさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で課題の工夫や小テストなどを取り入れることで、学習習慣を身に付けられるように工夫する。 ・漢字テスト年13回、数学計算テスト年7回実施を予定する。学習をせずにテストに臨むことのないように、クラス、数学科、国語科と連携した指導を行う。漢字テストでは平均点80点以上、数学計算テストでは平均点75点以上を目標にする。 ・学習目標や進路目標を持たせ、安易な遅刻や欠席をしないよう、進路課とも連携して目的意識を持たず指導を行いたい。また、全員皆勤の日への意識づけも行っていきたい。
3 生徒 指導	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・さわやかで気持ちの良い挨拶や返事、正しい言葉遣いができる生徒を育成する。 ・家庭との連携を深め基本的な生活習慣を確立し、いじめや問題行動の未然防止と早期発見に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「正しい言葉遣いや元気な挨拶ができています」では、昨年に続きよい評価であった。 ・「保護者との連携が十分とれている」では、保護者からの評価を得ていて担任の努力が伺える。ここ数年、全体では5分前登校ができていない生徒が減少しているが、遅刻や安易な理由での欠席が多いと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員は生徒に対して毅然とした態度で接することを心掛け、規則・マナーを守らせる。 ・様々な場面や集団で、時間・提出期限・身だしなみ・けじめをつける指導を行う。 ・無断アルバイト、深夜徘徊や外泊をさせないよう家庭・地域と連携して、問題行動を未然に防ぐよう努める。
	個別指導の充実と教育相談の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・個人面談を1人年間3回以上実施し、きめ細かい心の通う生徒指導に努める。(A:3回以上、B:2回、C:1回、D:0回) ・家庭との連携を深め、不登校の未然防止と早期発見に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒全員の家庭訪問が実施できているわけではないが、一人一人の状況に合わせ、年3回以上の面接を目標に必要なに応じて個人面談や家庭訪問を実施しきめ細かい指導を心掛けている。 ・教育相談課と協力していじめや不登校生徒に適切に対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面接週間以外でも生徒の様子を観察し、必要に応じて電話連絡や家庭訪問を行い、いじめ・暴力・不登校の早期発見・早期対応に努める。
	自ら行動できる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・規則を遵守できる判断力のある人間の育成に努める。 ・誰が見ても端正で清潔感のある身だしなみを自主的に身に付けることができる学校づくりを目指す。 ・自分の身は自分で守るという意識を持たせ、交通ルールやマナーを守る態度を育てる。教室の整理整頓や、施錠を確実にやる態度を養う。 ・携帯電話使用の適切なルール・マナー・モラルを身に付け使用できる生徒を育成する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、生徒の規範意識が高まり、校則や身だしなみの違反者が減少しているが、頭髪については時代に合わせた指導の在り方を考える必要がある。地域からの「元気な挨拶ができ、行動が良くなってきている。」という評価が定着しつつある。 ・自転車通学生の接触事故が3件発生した。ヘルメットの紐を調整させることと、見えない所で着用していないことについて街頭指導を行った。 ・盗難に備え、教室の整理整頓や移動教室時の施錠する意識を高める必要がある。 ・校内での携帯電話不正使用は、登校時に預ける生徒が多いので、減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HR活動で道徳教育を行い、規範意識を身に付けさせる。また、自主的に身だしなみを整えられるよう意識させ、校外での制服の身だしなみの乱れを減少させる。 ・原付通学生には引き続き安全教室、メーター確認を毎月実施するなど違反・事故防止に努める。教室、部室の鍵の管理は各クラス、部で責任を持って管理できるよう徹底する。 ・HR活動で携帯電話やSNSのルール・マナー・モラルについて指導し、トラブルになりそうなきには、自分たちで解決したり、注意し合えたりできる環境を整えるよう指導したい。

評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

4 特別 活動	部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率100%を目指して活性化を図り、学校を元気にする。 (A:100%、B:99~95%、C:94~90%、D:89~85%、E:85%未満) 県総体出場者50人以上を目指す。 (A:50人以上、B:49~45人、C:44~40人、D:39~35人、E:35人未満) 県高校総合文化祭出場者30人以上を目指す。 (A:30人以上、B:29~25人、C:24~20人、D:19~15人、E:15人未満) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 加入率は99%で目標に限りなく近づいているが、運動部への加入人数は減少傾向が強い。 県総体へは29名が参加したが、チームスポーツが参加できず目標に届かなかった。高文祭参加者も28名とやや目標を達成できなかったが、生徒数減少の中、大会等において成果を上げている。運動部において、新入大会や選手権大会で、人数が足りないこともあるが、他の部活に協力してもらったり、他校との合同チームで参加できた。文化部も活動時間が確保され、発表会や出品など関係行事への積極的な参加が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動部の部員不足により、合同チームでの参加が増えている。また、部活動改革や学校統合計画に向け、部活動の魅力化と活性化について検討しなければならない。
	豊かな人間性の育成	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動等へ一人年間2回以上自主的に参加することを促し、公共心や思いやりの心を育む。 (A:2回以上、B:1.9~1.5回、C:1.4~1.0回、D:0.9~0.5回、E:0.5未満) 	C	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスにより、少なくなっていたボランティア活動への参加の機会はずり減ってきた。多くの地域の行事、イベントが以前に戻りつつあり、VYSや部活動単位、有志の参加も増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動やクラス単位で実施したり、誰でもボランティアに参加しやすいように、情報の提供を行う。
5 進路 指導	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自己の生き方について考え、主体的に進路を選択できるよう、体験学習や講習会、進路ガイダンスなどの充実を計る。 3年間を見通した進路指導計画の下、有用な情報を適切な時期に提供し、生徒および保護者の進路意識の高揚に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各種進路ガイダンス等に積極的に参加させた。特に3年生に対して、個別に丁寧な情報提供ができた。 生徒への学校評価アンケートでは、「進路情報の収集・活用」の項目の評価が3.8に上昇した(R4は3.6、R3は2.2)。 	<ul style="list-style-type: none"> 1、2年次の早い段階から進路意識を高められるよう、生徒・保護者へのより多様でこまめな情報提供に取り組みたい。 キャリアパスポートの活用を図り、自己理解に努めさせたい。
	就職指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 地元企業や職安等の関係機関と連携を密にし、求人確保に努める。 応募前職場見学の計画段階から生徒に主体的に取り組ませることにより、就職活動に対する意識を高める。 面接指導や履歴書指導の充実に努め、就職希望者の決定率100%を目指す。 (A:100%、B:99~90%、C:89~70%、D:69~50%、E:50%未満) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、保護者の希望にそって企業や職安と連携し、新たな就業先の開拓ができた。 応募前職場見学の予定を生徒自らが事業所と交渉して実施したことにより、意識を高めることができた。 就職希望者決定率100%(1月末時点)。 面接や履歴書の指導を、丁寧に行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業、職安等関係機関との連携をさらに深めたい。 進路ガイダンス、応募前職場見学等に積極的に取り組ませ、就職に向けた企業理解、自己理解を深めさせたい。 学校全体で就職指導に取り組む体制を維持したい。
	進学指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた細やかな学習指導を徹底し、生徒の資質の向上を図り、進学希望者の合格率100%を目指す。 (A:100%、B:99~90%、C:89~70%、D:69~50%、E:50%未満) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 放課後補習など、生徒一人一人に合わせた個別指導を継続して実施し、進学希望の実現につなげることができた。進学希望者合格率100%。(1月末時点) 	<ul style="list-style-type: none"> 進学補習、個別指導等を充実させ、上級学校への進学率を上げたい。学力試験、作文、面接等の指導に学校全体で取り組みたい。
6 農業 教育	資格指導を充実させ確かな力量を確保	<ul style="list-style-type: none"> 1人1資格以上の取得を目指す。 (A:1人1資格以上、B:1人0.8資格以上、C:1人0.6資格以上、D:1人0.4資格以上、E:1人0.2資格未満) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 311の資格を取得しており、1人1.6資格以上の取得となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの資格を取得できているが、学科の学びの特性を生かした資格取得を今後も推進していきたい。
	農業クラブ活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 出場した各種発表、各種競技会での入賞を目指す。 (A:入賞率50%以上、B:入賞率40%以上、C:入賞率30%以上、D:入賞率20%以上、E:入賞率10%未満) 	C	<ul style="list-style-type: none"> 出場総数27のうち、最優秀3、優秀5、入賞率30%で、昨年と同じ水準であった。 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト発表やフラワーデザイン競技で全国大会に出場する成果を残したが、そのほかの部門では昨年に続いて成果を残すことができなかったため、指導方法を含めて検討が必要である。

評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

	地域に開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 農業祭や地域行事などに積極的に参加し、地域住民との交流や地域に貢献する生徒を育成する。 (A:年間36回以上、B:年間30回以上、C:年間24回以上、D:年間18回以上、E:年間12回未満) ホームページ等を利用して、農業教育の魅力や学習成果の情報発信を行う。 (A:週5回以上、B:週4回以上、C:週3回以上、D:週2回以上、E:週1回未満) 	A・C	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事や地域との学習・交流活動を、45回実施できた。生徒が校外での活動で活躍することで、社会性などの向上がみられた。 ホームページによる情報発信は135回(2月末まで)で、週3回のペースであった。 	<ul style="list-style-type: none"> 悪天候で中止となったイベントもあったが、おおむね目標を達成できているので、ただ参加するだけでなく、生徒が成長できる指導をする必要がある。 8月、9月の情報発信が、3回、1回と少なかったので、発信内容の工夫をする必要がある。
7 環境教育	豊かな自然を大切にす る心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 地域の環境調査や保全活動などに定期的に取り組む。 (A:年間12回以上、B:年間10回以上、C:年間8回以上、D:年間6回以上、E:年間4回未満) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 矢落川丁永橋周辺での環境調査や清掃活動にほぼ毎月に取り組むことができた。 水生生物による肱川の水質調査を、新たに取り組むことができた。(環境調査・清掃活動12回実施) 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関や関係者と協力しながら、継続的に環境調査や保全活動に取り組み、地域環境の保全や改善に取り組む。
	身近な環境問題の解決 に主体的に取り組む生徒 の育成	<ul style="list-style-type: none"> 終始徹底した清掃への取組100%を目標に、校内ごみ0(ゼロ)を目指す。 (A:100~90%、B:89~75%、C:74~60%、D:59~45%、E:44%未満) 美化活動に努め、汚させない環境づくりをする。正しいごみの分別等の実践を通して環境への意識を高めさせる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 終始徹底した清掃への取組に関する生徒の自己評価は、1学期85%、2学期は84%であった。5分前に清掃場所に移動することを徹底させていきたい。 美化委員が環境美化やごみの分別を呼びかけた。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間いっぱい集中して取り組むようさらに呼びかける。 様々な授業や活動を通して環境負荷の少ない生活について考えさせ、行動に移すように促したい。
8 人権教育	平和と人権を大切にす る心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒人権委員会の校内外での活動を充実させる。その活動内容を「人権だより」に掲載したり、人権教育集会を等して全校生徒に知らせ、人権意識を高める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒人権委員会の活動を「人権だより」を通して生徒や保護者に発信した。人権教育集会で、活動報告をし、全校生徒が人権について考える機会を持った。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒人権委員が月毎の人権標語をショートホームルーム等で紹介し、人権について考える時間を作る。
	教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめと教育相談に関するアンケート」を学期に1回実施し、いじめや悩みの早期発見・早期解決を図る。 教育相談室にはカウンセラーが常駐し、生徒が気軽に相談できる環境を作る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめと教育相談に関するアンケート」を学期に1回実施した。教育相談室にはカウンセラーが常駐し、生徒が随時相談できるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談内容をホームルーム担任等と共有し、生徒の悩みの早期解決に努める。
	家庭や地域と連携した 人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 人権・同和教育ホームルーム活動等の公開授業を年間4回以上実施する。公開授業の日時や内容を工夫し、多くの保護者に参観してもらえるようにする。また、「人権だより」に保護者や生徒の感想等を掲載する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 人権・同和教育ホームルーム活動等の公開授業を年間4回以上実施した。生徒人権委員会が地域の行事に積極的に参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が地域の行事に参加する際に、生徒人権委員会に加えて全校生徒に呼びかけ、有志の参加を募る。
9 情報教育	情報活用能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒1人1台のパソコンの導入に伴い、知識や活用技術を身に付け、授業に活用できる能力を養う。 情報セキュリティに対する教職員の意識を高め、ICTの普及に対する適応力を養う。 HPやSNSを活用し学校の情報を積極的に発信する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 学校におけるICT機器の活用はほとんどの教職員が普通にできる段階までできている。校内での研修会等により、教職員の意識や技能も向上している。 HPは毎日の更新を目標に各担当の学年・課で意欲的に取り組めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員のICTの活用する場が増えたので、より実践的な能力や情報モラルの向上を図れるよう努力したい。 ホームページの更新をふやし、充実を更に徹底したい。
	情報モラル・コミュニ ケーション能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> パソコンやスマートフォン等を用いたインターネット、特にSNSの利用について具体的な研修を行い、生徒の情報モラル・コミュニケーション能力の育成を目指す。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が学習に1人1台のPCやスマートフォンを利用し、Teamsやロイロノートなどを活用するのが普通な状況になり情報モラルについて、自ら考える状況が増えてきた。この状況に合わせた情報モラルについて授業でも取り組めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報Iの授業を通して、情報モラルや情報リテラシーのより向上を図ると同時に、基本的な操作やプログラミングや表計算ソフトの関数の活用など便利な道具としての活用ができるよう取り組んでいきたい。

評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

10 図書指導	読書習慣の定着	朝の読書に学校全体で取り組み、活字メディアへの興味・関心を高め、日常生活の中で読書に親しむ態度を育てる。	C	・朝読書に学校全体で取り組むことができた。読書アンケートで、朝読書で読んだ冊数が2冊以下の生徒が66%（昨年度62%）と、読んだ冊数が少ない生徒がさらに増加してしまった。	・読書習慣を確立するため、朝読書の時間をしっかりと確保し、学校全体で引き続き朝読書に取り組んでいきたい。
	図書館利用の推進	・授業等、様々な場面で図書館を活用する機会を増やす。 ・図書の出張貸出や多様な本の紹介などを行い、図書委員会活動を充実させる。	C	・国語科など各教科の授業で図書館を活用することができた。 ・読書感想文発表会の朗読劇等で本の紹介を行うことができた。	・授業を始めとして、様々な場面で生徒にも先生方にも図書館を利用してもらえるような働きかけを工夫したい。 ・本の出張貸出などの取組を充実していきたい。
11 学校保健 学校安全	心身の健康の保持増進	・保健指導や保健委員会活動を充実させ、自らの健康に関心を持ち、管理できる力を養う。 ・健康診断結果や保健室来室状況等をもとに、生徒の心身の健康課題の早期発見、早期対応を図る。	B	・毎月の保健日より保健掲示物によって、健康に関する知識を生徒に提供した。保健委員会では感染症対策やトイレチェックなどを行い、健康・環境衛生への関心を高めることができた。 ・相談に訪れた生徒については、関係する先生方と連携を図りながら個別の対応を行った。	・生徒の関心を高めて健康意識を向上させられるように、保健関係刊行物の内容を工夫するとともに、保健委員活動を充実させる。 ・二次検査の受診率を高めるために個別の声掛けを進める。各検診時には、治療だけでなく疾病予防の観点も含めて指導したい。
	学校の安全管理と環境衛生管理の徹底	・校内の安全点検（月1回）と実践的な避難訓練を実施し、安全のために自ら考えて行動する力を育成する。 ・感染症対策と環境衛生検査を確実にし、校内環境の維持や改善に努める。	B	・毎月、安全点検を行い、危険箇所や消火器の有無を確認できた。計画している年2回の避難訓練に加えて、原子力の避難訓練も実施して安全意識を高めることができた。 ・感染症対策のための喚起を呼びかけ、学校薬剤師の先生に助言をいただきながら、保健委員と定期の環境衛生検査を行った。	・毎月の点検で校内の安全を確認し、関係機関と連携を取りながらより実践的な避難訓練を実施する。 ・日常の点検や定期検査を計画的に行い、校内の環境衛生を良好に保つよう努める。
12 学校行政	施設設備の充実と施設維持管理経費の節減	・学校運営費の節約に努め、効率的・効果的な運用に努める。 ・電気・水道の使用量を前年度比95%を目標とし、節約の推進啓発に努める。	B	・学校運営費光熱水費について、定期的に意識啓発等を周知する。現在のところ電気使用量87.7%、水道使用量93.2%となっており、前年度比95%以下の目標を達成できる見込みである。	・今後も定期的な意識啓発等周知し、年間を通して目標達成できるよう努める。

評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。